一年まつもる世話もよろこひも一人ゐたい〳〵まや夜や明ち　本村朝昭

よたちをしまらねをしむこたつきの入相のゐねま暮ていきゆさ　新城安規

うれしさや今宵ゆきもふりおをてこしをゝしみたるたよりゐたさ　小那覇朝親

年のゐすをこてたこなほしやたゆたるわらへしの眞肝いつもあらゐ　多嘉良里親雲上

まくらをは立て一人ねのそらにきくもつれゐさやふゆの夜あめ　花城里之子

いろ〳〵乃木くさふゆかりまゐても千代のいろふくむまつの美さ　伊是名朝睦

草からすしものふゆんてこいふすかにはやしらきくのはゐのさかり　護得久朝惟

木枯のかせやきくのうへやふくゐすき去しあきゐのゐたみたいもゐ　仲尾次政雅

きのふけふよこめはいなあきもすきて木くさ枯はてるふゆまなため　佐渡山安豊

しもこれみなちやさのこるしらきくのにはのまし内にわらて咲す　高良睦輝

世界や野もやまもしもに枯はてゝかにもさひしさめふゆのけしき

心あてしもやたけくふて吳るなにはやしらきくのさかりたいもの　仲尾次政模

そらや雨はれてくもきりもないらぬすみてゝりわたるふゆのたつき

咲き殘るきくのいろきよらをあものいまふち御目かけれわ玉こゐね　城間恒謨

千草かれはてる野邊のさむしさや夜あけしらくもにまつの花らし

ゐにもさひしをめにはの竹の葉にしけくれたこたちゆるほんのをくれ　山城宗蔭

禁止やまたならね可惜わかにはのもみち葉よちらす無情のあらし　仲尾次政昆

のゝにくさ花こてあたらもみち葉も吹散ち吳ゆか無情のあらし　比嘉慶

木草ゐれはてるゆきしものふてもこきはゐるまつやもこのすかた　德田佐平

くさ葉かれはてゝかにもさむをさめあゐつきのそらの野邊の景色

Digital image © 2009 University of the Ryukyus Library

富永實文

ゆきもものに野邊のくもやかれはてゝそらにありあけのつきこのころ

花城康故

雨ほれてみれはもやゐてるつきのしもの上にうつるかけのきよらさ

渡口政發

ゆきもものふてもときはおる松やかわることおいらぬもこのもゐた

ゐめになかされてそらやくも霧もはれて清みわたるふゆのたつき

比嘉賀德

あきや暮れたもか素立たるきくやのこもはつふゆの伽におゆさ

佐久本喜章

浮世すみよしのまつたいんす冬やゐらしふくたこゝ朝夕きちゆる

●戀

尙灝王

ゐけよこれきやもゆか漕みちや知ぬ深海のりちやちやる戀の小舟

與那原親方良矩

與所めはぢしちこ思ぬふりしちゆるわもられめ戀路こしやよても

仲村拐節　述懷　戀路わすれよるこしやあらなしゆてうらめしや義理の我肝せめて

仲村拐節　むかしなりそめのはなのものかたて與所にきゝなしゆる年の恨しや

于瀨節　逢ぬ夜のさきこくおひやいみれはこてもなしほもやゝ吸ぬむゐし

仲村拐節　浮世自由おらぬわもらんてもれはつめてたみましゆる縁のつらさ

仲間節　宵もあかつきもおれしたもかけのたゝぬ日やないさめしをやの烟り

于瀨節　こゝろあてしもし空曇てたはうれしのふあこてらも夜半のたつき

長伊平屋節　忍ふ夜やつきもこゝろあてたもうれ與所もれて浮名たゝぬここに

仲村拐節　逢ぬ夜のつらも與所に思おちやめうらめてもしのふ戀の習や

述懷　ふらもふれ無藏ゐ戻る道もからあめやゐかくもたよりたゆもの

旅やこのねさめまくらもは立てむかし思出もゆる夜半のつらさ

ゐまかこまこもて啼らてやもこめはわかれこるわ身やもくろくつさ

大工廻親雲上安祥

布なさぬうちにあきやきりくすおきやんてやりたゐもつおき吳か

散山節　浮繩こ八重山縁のゆこもゐるてもこもゐけのたゝは互にひかゐ

述懷　無情の山嵐やたるにたのまれて我肝ゐまゐしゆかゐさもゆさも

仲間節　袖合ゆくさきやきやおらもんまゝゆきりたのて浮世くらさもりゐ

全　約束のあてこねやの戸はたゝくたゐすてやりゆゆもや二人まちゆめ

乃かすこくわ身にものも思はしゆゐ與所もおかめゆるつきこやもゐ

浮世かたもみにもの乃ておかめゆるこゝろもるものやつきこふたて

むかし匂すたる深山うくひすのなきこへわすれためはなのあるし

Digital image © 2009 University of the Ryukyus Library

述懷　平敷屋朝敏

啼ぬたみわらへゑかさよゑゐれか夜々におく我身よゑかちくいらな

下句ハ妻ノ詠歌　ゆめに無藏たそはならへたるまくら吹よたそまゑおこひのゐらし

豊見城王子朝長

春のはつさくら秋乃うすもみちにるものやおゐさめあれかすかた

義村王子

干瀬節　ゐきやしゑおあれに縁のはしかけてなをけかよはさな戀のわたり

手まくらのなさけゐつもはるとも今につらを身はふゆのくさ葉

つめて覺出しゆさゝやかてるつきに一夜かりそめのはなの色香

かたらても互にゐこと葉やのこてこゐしあかつきの鳥もなきゆさ

干瀬節　夜々に手まくらのおれしたもかけやたゑつれて吳たか旅のそらに

惣慶親雲上忠義

干瀬節　沙汰ゑゑちくゐゆらねふる目もをめて傾きゆるつきと伽にしやへる

仝　ねてもたもかけ乃わすらゝぬ故とゆめにこへたてゝ浮名たちゆる

ゐつもきくものとよそや思おしゆら逢ぬ夜の空のまつのあらし

遊女よしや

仲間節　及はらぬとめは思ひまするゝみゑけやちやうもうつち拜みほしやの

干瀬節　たのむ夜やふけて音信もおいらぬ一人やまの端のつきに向ゑて

たそてとてなける科もないぬまくらをとかたもかけを夢にしちゆて

あさましや浮世與所の上やしらぬ我身やこの世界に一期ともて

恩納嶽　恩納　おへ

干瀬節　むゑしおかめたるなみの上のたつき今はたもかけのてりよまさて

神村親方

干瀬節　浮世おらひともて無藏もとちあとに百名立よりもたみの苦しや

北谷王子

朝日さすかけのちりのとふことは我肝あまかしゆる縁のつらさ

美里王子

義理のせめおはもいそきくちはてゝ我かまゝにおゆる浮世おらな

喜屋武按司朝敎

述懷　義理ともて戀路わすられてゑらやゐよてふみまよて浮名たちゆゑ

浮世ならはしの戀路たらやすかのかをまゝおらぬ二人かおゑや

宮平親方良綱

たもひ身にあまてゐちやつくさらぬあはれ口無のはおはむかて

仲村枘節　しのふゑよひ路もたへてをる中はのかをとくゆめゐしけくみゆか

Digital image © 2009 University of the Ryukyus Library

仲村拘節　ゆめ路かゑはしゆる仲島の小はしさめてたもかけのまゑてたちゆさ

仝　わすらてやりすれえゆめや橋かけて夜々にかよはしゆる縁のつらさ

仝　つく〳〵と獨いむかしたつねれはおつかしやゑらぬとしとやゑか

おゐらへてをためいくとゑゑへてもわすらゝぬもとゐえおのすかた

まゝならぬ戀路ふゐくふみまよてものよれみつくすかたもないらぬ

干瀬節　逢ぬゐかつらのやみちふみまよてつきまちゆす無藏ゐゆめに見たゐ

小橋川筑登之

傾ふきゆる御月しはゑ待めゑやうれたもひある無藏ゐ山路たゐもの

自由おらぬものとのよてえの頃に生れとて朝夕我肝やきゆか

赤嶺親方

諸飩節　まくらおらへたる夢のつれおゑゆつきやいりさかてふゆ乃夜半

高宮城里親雲上

久仁屋節　逢ぬもとる夜乃野邊のえおすゝき無藏かうちまねくそてゑともて

吸ぬものゝゑてゆめや夜々ことにそてゑひきをこすえおのわらへ

おゐめれは誥てたもことゝまゑゆるとてもかきこもれ夜半のたつき

垣花朝完

伊野波節　はおやさきすれて黄葉になるまてもかわるおゑ互にもとのこゝろ

板良敷親方

述懐　ゐほ見ちもあれかゑらぬゐや我肝ゐこと葉に出ちいやらぬたもひ

小波津親雲上

仝　とても思切はまゝなゑめ二人一期義理の上にたらすゑりか

津嘉山親方

干瀬節　おさけあれわらへはなもひとさかりちりてあとゝまゐる人やをらぬ

仝　しのふ路てらすつきゐうらめしや我身のあとかくすかけやおいらぬ

阿嘉山筑親雲上

述懐　與所しれて浮名たつおみのしけくおゝらはぬまゝよこひの小舟

小祿按司朝恒

たもひこかれても自由おゆめやすゐゐきやもゐおゐ朝夕拜みゑしゃゐ

清わたるつきのかたふきゆるまゝに引されてゐゆる戀のやまち

忘らてやりしちも朝夕たもかけのたちまさり〳〵目乃緒をかて

述懐　ゐきやすわすれゆか朝夕たもゐけのうちむゐる方にまさてたてゑ

仲間節　ゆめにことかたてわゑらてやてしちも難面やねむるひまもおいらぬ

かねてからふかくたゐてあるかおやいろわけてそめれ紺屋のゐるし

ゐやへもたとたてゝ吹つめれ新西まれに振合ちゆてかたるこよひ

散山節　ゐきやす渡よかやおみかせもたちゆゐふかみのり出ちやる戀の小舟

まゝおらぬ世界にたもかけやのこち行衛おゐぬ人ともゝらめしやる

Digital image © 2009 University of the Ryukyus Library

干瀬節　たよりかせあごてゐまこまのこともたちち聞ほしやゝ濱の眞砂
仝　あたらそおやすかまし立ることのならおしゆて朝夕かせにもまち
仲間節　義理もふみたかぬしおさけもつくち浮世わたゆゑと人のかなめ
仝　おさけをり外ゐたのもしやないさめつく〳〵と浮世たもて見てはかわるおよ互ゐ契るいことはのゐほひ身にふかくそめてたきゆて

本部按司　朝救

とひとりのつはさ借れは夜々ことゐかをむちの空や我自由やをかたもおけゐたゐんをたゝなたき吳は忘れゆるひまもあゆらやをか
仲村拐節　そらに吹すきるおせたいんをにはのまつに音信もある世やをか
仝　思きやけもしらぬとしの寄てわたる仲島の小はしゐゐちさらめ
仝　浮世なれをめのわかこゝろおけおたつかもておたゆる年のらめしや
仝　こゝろゐてふくおたもかけにたいんをわきも夕間暮のまつのゐらし
仝　ねをめたところきにたかそてをとめはにはに咲梅ゐしゐらしにゐむ
仝　とこしのよられゝは思出しもをれらつめておたらたる人のむかし
仝　どもになかめたる夜半のたもかけやゐつもありゐけゐつきにのこて

大宜見親方

述懷　一期このこと い夜々の夜々ことに畜生けな我身やつゆにぬらち
仝　ゐおむかしなるゐあはれおたらたるなれたゐことはのくたぬうちゐ

仲間節　しはしおたごきもわするまやおいらぬかなしたもかけと一期つれて

美里王子

恩河朝宣

一本ニ豐見城親方　おをけたもよらはちきる言の葉のうらやても與所にしらち吳るな

與世田里之子

述懷　おひくおやう與所ゐ袖とやいひきも二人かゐこと葉のくたぬかきを

仲程良恩

干瀬節　いおなうきつらさかをねても我身のゝよてあた心無藏にむちゆる
里おの手になれしはなゐしたひもやゐくはるにおてもたかすときゆか

金城朝眞

浮世ならはしのこおちたらやすかのかやうまゝおらぬ二人か中や
一本ニ恩納ナヘ　思ぬゆへからと覺出しもたゆる我身やたしゆの間も忘れくれしや

瑞慶覽昌綱

ふられゆるわみにのをてたもかけのうちむかへ〳〵そてにすかる
仲間節　たもおけとおこをつれるあわれさにつゝめかくさらぬをてのなみた
よひのまや互にをてをかさへてもわおるあかつきゐつらさためは
仲村拐節　我か身ふりすてゝたもたすかとかゐあれやおたたもひ磯のゐをひ
おみにたとそへてたるよおゆやいなきゆかゐはれ仲島のうらの千鳥

Digital image © 2009 University of the Ryukyus Library

仲間節
しなさけこ頼むたるか上にゐてもわゐれてやりいちも思ゐたきゆめ
仝
日々のいこなみゑつゐかれて我身の拜みほゐやあても自由もならぬ
仝
露たいんすはゐにこゝろゐてふゆい人にしなさけのあらゐたきゆめ〳〵

田里親雲上

述懷
をきて身にゐしてやくゐてもまさてかゐゐふやかれのもゝの苦しや

仲順親雲上

思切んすれは無藏かたもかけのたちまさゐ〳〵目の緒さかて

伊舍堂親方

述懷
あらゐふくゐるのはゐの上のつゆいうちふらり〳〵ほひもすえぬ
仲村柄節
ゐかめれはつめてたもひゐてあけのつきにてまさる無藏かすかた
干瀬節
まゝゐらぬものやこゐちさめひこの義理やえむからぬうきよやれは

久志親雲上

いろゑあらはれて落らねえのよて與所のこかめゆかえてゐゐみた

國頭親方

たもここゐゐても與所にかたられめたもかけこつれて忍てをがま

兼本

目にもみられらぬ手にもこられらぬかゐしたもかけやきもにすかて

豐見城王子朝尊

干瀬節
みゆるものやれはこやいすてゐすかきもにゐくゐこりあれかゐさけ

古波藏親方

述懷
うらめしや義理にゐらぬこしよらち手こてひかれらぬはゐのわらへ

訪諏木工右衛門

はゐも世のゐかや自由ゐらぬさらめあらし吹く夜やつゆも吸ぬ

宜保親方

干瀬節
ゐれしたもかけや旅まてもつれて夜々ゑ手まくらゐゆめのつらさ

盛島親方

ゆめに無藏御側たそてたもかけの目の緒たつなみに我袖ぬらち

喜屋武親方

浮世くさ葉ゐつゆこゝろやすゐしのふゐたときも自由もならぬ

浦添按司朝英

鶴に鴛鴦ゐたもひ羽つけてあを夕つゝまれてくらしほしやの

神谷厚詮

ゐさけあてゐくゐ野邊ゐえゐゐゐゝき二人かたまの緒ゐたしさゐらは
干瀬節
たもひある中や野邊のくさやこにそてしきも二人ねらゐをきゆめ

邊土名親方

一人ねの空やあかさらぬあてこうらめたるこりのはつ聲まちゆる

Digital image © 2009 University of the Ryukyus Library

美里按司

さま〳〵に獨りいらぬことまてもたもひみたらしゆる縁のつらさを

江洲親雲上

まくらおらへとてみをかものかたり夢ともてきちやめ御きもかわる

約束の誓やたからはぬをゝり罪乃無藏か上にあらはきやしゆか

内間親方良經

ゐさましや浮世いつもこのゐろいおさけないぬ紺屋にたのむかおや

渡地乃うらやいつもなみかせかつなきをくふねのをてもつかぬ

玉川按司

渡海の上に我身や浮く舟乃こゝろこゐれとてまちゆるかせのたゝり

漢那庸森

ぬゐす我かをてやくをの葉もあらぬ夕間暮におれはつゆのやとる

思こゝやはしらをてをゝ眞帆かけて戀のせめゐせとつれてゐきゆさ

ぬきやからは浮細いりをかて八重山互ゑたもかけやつきゑてらさ

けふのつきをゝに針乃糸かけてあれゐそて我袖とめてみほをゝや

おみにもまれゆる浮舟のこゝろ我身やこまおゐい捨ていまいめ

玻名城里之子

きやおらをんともて戀の深山路にふみまよていきゆるはてやしらぬ

山里筑親雲上

こひのいとなはゑつおかれて小舟浮世わたりちの潮とき忘すて

仲尾次筑親雲上

いきやかおていきゆら果やしらおみにぬれて漕わたるこおの小舟

鳥たいんす人のしおをけのいとにつおかれてなれる浮世やすか

與所やおみたゝぬ浮世なたやすくわたてたのをみゆる戀路やをゐ

とやおすてらなや夕間暮とつれてたゝくやまてらの鐘のしもく

高原里之子

たもひありあけのつきともろともに鳴あかす罪やたるゑいきゆゐ

當間筑親雲上

新西ふく夜の一人ねのをらやたしむあゐつきのとりこゐまちゆさ

豊見城親雲上

おみあれてさらめこひの舟橋もゐけてわたらゝぬ縁のつらさ

辻メイフツノオト

我か思ることに里かともためをいやりをぬゐてもいまひらやすゐ

讀人しらす

たまこかね無藏やみつの上の御つきをかみつめおけお自由もおらぬ

とかくまゝなゆるせつもあらやすかまちかねるつきひ思のくれしや

一本ニ眞喜屋親雲上

仲間節

Digital image © 2009 University of the Ryukyus Library

かよてみる自由のならぬしゆて互に節まちゆる間の思乃くれしや
ふやかれてをてもしぬさけや互に通はちとせつもまちゆらやすか

仲間節

義理ともて里前せつよまちめしやうれむすてある縁の𐀀たにぬそめ
義理とうらめゆるぬさけわゐれよめ縁や通えちゆてせつとまちゆる
まゝならぬ戀路ゆめにかえはきゆてせつえまちかねる縁のつらを
義理やくれしものあらぬいきわかれ便りあて𐀀れまいやりゑらぬ
つれなさやゆめの世のならにをとて朝夕義理の上にたもおくたち

仲間節

義理たのてわたる浮世しりぬけぬうらめゆさ互にこおのぬらひや
𐀀ぬやんから浮世義理乃ぬいぬ𐀀れは二人まゝぬゆる戀路やすか
思ぬゆへからと義理まことよゑるかくれみそ路の𐀀らぬたきゆめ
とてもうちころすまゝぬらぬ世界に一期義理たのてくらをよりか
とてもうちころすたしむ身やあらぬ一人こかれとて思ゑえりか
まさる花やらはいらて吸めしやうれふられゆるわみのゝうらめゆか
浮世のらともて我自由をんすれえうらめしやくたぬきりの責縄
戀路はえめたるひとゝうらめゆる義理の責縄やとかぬしちゆて
約束やしちゆて無藏まちゆるよるや花のつゆまちゆすらんかあゆら
高はしりあけてさとまちゆる夜やはなのつゆまちゆすかまゑあゆら
路端乃さえや與所の上ますかる我身やさしなやいま里ますから

干瀬節

闇の夜のからすなかぬもの知をめいやなしゆてうらみ無理や𐀀らね
はぬとしをぬけなこゝろつくしゆすもときの間の縁のくらさあてと
怨みことあれにいやなてやりすれは切てさめ御縁御行逢もすらぬ
きやぬちはもともて捨ていく我身まのゑゆらいことはに情けかけて
思切めさと前たと信もぬいらぬらくれほそ路乃くさ葉𐀀らち
捨よらはとてもたもかけもともにきりて𐀀とかけもたゝぬことに
我みたもる無藏よたまぬむくひかや我か思る無藏やわみやたまぬ
見る方にうつるはぬそめのやからいつえとりしめて我自由ぬしゆら

仲間節

なをけ思をらは我かなもらをなやう與所しらぬことの戀路たいもの
たとぬ與所つれて遊はもをたしやにみひとも與所にうつちくいるぬ
袖合たるむつれ與所のいきやいやえもぬたるぬいくつて儘とやゆる
むすふいと縁乃むかしくりもとち今まなしみしやゝえまの眞砂
むすふ糸縁のいぬくちゆんとめはしなさけのかたみとらぬたすか
切てなかたへてまたむすふ御縁かわるなやう互にあのよまても
與所のいきやいやはもかわるぬを互に與所や花散す嵐たいもの
いやぬしゆて互まに通はしゆるたもひのよてことれて與所のしゆか

干瀬節

なさけ思よらはわらいきゆるさきにむかてるたさせやう小灣小松

大兼久節

名護の番所たゝいまの羽書我みもたち賜れ我無藏みやらぬ

Digital image © 2009 University of the Ryukyus Library

恩納節
七葉ゐし多葉粉かしらこにしちゆて里と原とおてゐきやはたゐもの
あれかともゝたかわ沙汰ともしゆらは哀れ鳴たんてかたてたはうれ

恩納節
晝やちやうも里とおはる〳〵しゆゝおゝ夜の一寸のまやゆるち給れ

干瀬節
朝間夕間通てみる自由のおれは見欲やうらきらしやのよてしやへか

大田名節
ゐさ道かいまひらゆな道かゐまひらわみやうじやおゝ森御待しやへら

仲間節
我身や無藏尋ひ無藏やわみ尋ひ一人尋ひ〳〵にや夜や明ち
七門越て九門にわおい御待たゆすかおまてこぬ里やにや與所つれて
島もとな〳〵とつきも山の端にゐはれ無藏とまいて島もなきやさ
夜あらしのたゝくねやの戸はあけてみれは里や來ぬつきといゆる

述懷節
寢間にむるつきゐ我かこゝろしらは戀たのふ里とつれていまうれ
つきの夜もとるい闇の夜もよるゐ里かまいる夜とにやよるさらめ
行もいゐれらぬ居もをられらぬこひの路たはにおきとあかち
こゝろあてからや海山の底もたつねらなをきゆめあれかゆくゐ

謝敷節
なさけゐてたはうれそらしける雨もたまにやくそくの今宵やれは
たのていくこゝろ與所やしらねとも袖しかほかくす戀の習や
たのふゐとかくすはるのそお笠やそらしける伊めのたよりなたさ
ふるゐめにたよて笠にかをかくちしのて行こゝろ與所やしらぬ

長伊平屋
逢ぬ夜の笠やいらぬものをらめそらしらぬあめのわそてぬらち

全
ゆきのそお笠やいらぬもゐさらめあられちるたまやそてまつゝて

出砂節
笠やゐめふりのあまゐたか便り我身やたるたとゐさとゝたよる
きやおらはもともてこおの深山路に踏まよていきゆるはてやしらぬ

述懷
ふみまとてさらめこひの深山路にむかていくさきのほともみらぬ

全
暮をらぬ一人やまの端ゐむかてまちゆれともつきやおまてゝらぬ
をやかてるつきゐゐけとうらめたる人のいこと葉やおまとしゆる
今と思たゆるをやかてるつきのゐけとうらめたるおとのことえ

仲順節
やみの夜の間や我みとまゐてをゐまたまこかね里や月夜まゐまうれ

述懷
こゝろくらやみやたるゆへにおたか我身やゐりあけのつきとやとか

伊江節
にてにてるたつきゐんまてうつきさとたほらし御肝わみにうつす

出砂節
笠にちりとまるとゐるゐはおこゝろそてに思とまれをとかたきも

白瀬走川節
散りとひゆるはおやいとにぬきとめて里ゐたもかけやきもにとめら

謝敷節
はおとつゆのゐんゐたらませ我身ゐ夜々ことにた側そやいをらまお

仲間節
おをけあるつゆとはおの上やふゆる眞實の思のあたにおとめ
一粒あるはなのゐとにぬかれとめぬゐぬこと互にたもてたはうれ
花當の里前はおもたちたはうちはなもたさよりゐ御胴いまうれ
はおとまは里前となもたちたはうれいつまてもとまは御胴いまうれ
里やいきぬれゐはなと思おしゆら我身やゐつまてもたゐてをすか

Digital image © 2009 University of the Ryukyus Library

のかすしらつゆやつゞてまちかねるはなの上やふらぬわ袖ぬらを落てゝやりおみた他所にあらはしゆめ袖のしからみゐくたぬかきり

述懐

宵もあかつきも思出ちゝかきりまくらうきふねにおもか心氣梅やはお咲きゆゐ庭や雪ふゆゐ無藏かふこころや眞南こふきゆるつき見しもあれかはお見しも𠀋れかたもかけこまさる夜も晝もわすれてやていちもわすられめ朝夕おれしたもかけの目の緒さかてのよてたもおけやつれてきち吳たか一寸もはおれらぬ目の緒をかてゐきやちわすれゆかすみなれしたをを朝夕たもかけやそてますかて夕間暮こつれてたちゆるたもかけまあさましや我肝これていきゆさ

干瀾節

今日やのかやゆら面影のまさてこかくおま時分我沙汰みしやいら

花風

あをひたもおけやまれ〳〵こたちゆる里おたもおけやあさもゆをもわおてたもかけや互にあらやをおくらさらぬあすや一人さらめ夜やゆめしけく晝やたもかけのたちまさい〳〵わすれくれしや晝やまつせめてこやかくにちゆすかよるのこよおかやあかしかねて夢のかをはしまあわれたつねらはまたゆめに返事やきかちたはうれ

干瀾節

面影のたゝは沙汰よしゆんこもれゆめしけくならはおきゆんこもれ夜々にゆめしけくかをはしゆるこまさめて自由なゆる浮世やらおゆめやまたあらねまここゝもやらえ𠀋りしこの間の由緒きかせ

散山節

謝敷節

みこし思つもる人しらぬあはれたまこかねをこましらせほしやのかしらをみたれて誰ちかへもしやへん里をりもほかにきもの𠀋らはまくらそはたてゝきくもうらめしやまちゆるこきをれる鐘のひゝき

仲村拘節

淺地そめらえも紺地そめらはもさこまゝこやゆる我身やしろちそめゆらはこても小鳥のいろにあをちこもやらはゆるちたはうれ

本散山節

仝

仲間節

そめていろつかぬかなゐあめ世界におをけ𠀋てそめれ紺屋のあるしかねてからふおくたのてあるかおや色わけてそめれ紺屋のあるしゐしゆおいたつらに色つかぬかおにふかく染らてやりこゝろつくち

仲間節

紺屋もきゝおてこおもたのたをかゝおゆへをやたらいろもつかぬ

干瀾節

かな〳〵こ紺屋の染おさんゆへこむちやり別さらぬつくておきゆるましら浮よさるちえたおん布たらはあおぬいろそめれかおし里前

眞地福ノハイテヤウ節

かをかけて伽やならぬものさらめくりかへし〳〵思こまさるわくのいこかすにくりかへし〳〵かけてたもかけのまさてたちゆさ

アカサ節

わくかをゐ乃御おんあたらませる互にくてかへし〳〵切ぬここにをかてなつかしやまつせめてやすかわかて俤のたゝはきやしゆかふやかれてひこてくてちやてよ思えよしむ言の葉も𠀋たらやすか

仲間節

末吉の開門かねや首里の開門こもて無藏たこちやらち我肝やにゆさふやおれてあこゐ名殘おいぬここにかたらおつくされる戀路やらな

Digital image © 2009 University of the Ryukyus Library

仲間節

逢ぬさきをとてこかれゆる間乃ものたもひてすとこひちさらめ
わすらんてすれはたなさけやふかを思切んすれを思とまさる
浮世自由おらぬわすらんてすれはつめて思ましゆる縁のつらさ
のかすとくかゆ為る我身のしゆる戀や思盡すことのはてもおいらぬ
ゐん自由もおらぬ世界やおて來れはのしゆか世話〳〵とものを思て

述懷

拜まねはのよてこの為われしやへか引合ちやる縁とにやうらみゆる

述懷

かに為んてを思は吸なたきゆたすかまよてさめ肝とにやうらみゆる
むをひとちまらぬ御胴やてゐらや吸なさきをとてゐちやくいらぬ
御衣かさへしちも思あわぬ二人吸ぬものゝしゆゐたもおつくち

子持節

あけやうこれきやしゆか思切やおらぬ引されていきゆさ我身の肝や

述懷

捨られてあとのくつさ思よりゐ御ゐんあるうちにゆるちたはうれ

白瀬走川節

しほらかこしゆらんて山葉をちたちあん袖や谷かはのそこにひたち
互にかたらたす夢のまとやすかまとるみゆるうちゆさめていきゆさ
あれかゆこと葉のゆなくちゆんとめはのよてかたらたか朝も夕さも

仲間節

あをましやたもひさためてもかわるたのみかたおさや人のこゝろ
為さまをやわらへ與所ゆたてつきやめ朝夕かたらたるなをけわすて
一期てやりんてやたか始めゆちやかさとやきもかわて與所におれて

干瀬節

捨られる我身のくつさてやなかぬをゆらかたまゐ緒乃たしをあてと

捨られるわみのくつさてやたまぬ報をともあれゆいかはきやしゆか
我かしゆゆる戀や干瀬に打小波をてつきやんとめはのちといきゆる

花風

里やおりふしのすゐたとりみしやいら我身やをなさけの縁とたのむ
松の葉に二人ねてもくらちやすかおまや芭蕉苧の葉もしはくおとさ

干瀬節

をる邊おいぬものや海士のすて小舟つく方とたのむつなきたはうれ
我ゐをゆゝるこひやわたし舟こゝろ一期漕れとて浮世わたる
為れゝはも漕いをかなてもこきゆゆやおは渡海やれはこかなゝをめ
我かしのふ道に籬たてるやから吹ちらちたはうれこをの為らし

述懷

糸目から針目ほけるとも我身のゝよて思さとかみこしひきゆる
隱すゐなるくちもしかしれよらをゆやん一人やなさぬかたれ一みち
あらはれてゝやり里一人なしゆめ我身もゝろともにおらんをゆもの

早作田節

二人まゝおらぬ世界にをてのしゆかてかやう極樂のはおのれてを

干瀬節

わゐさひとゝきのかをひちの空やゝみのさくへらもくるまたう原
我自由のなれはあれや自由おらぬのかすとく世界や為にあるものや
すみ習や妻やおいをしやゝあをか殿内つめみつきしまの一つき
出てこよやれを出られやしゆすか出てあとゝゐやをとかはちゆめ
たもゆらは里前しまとまいてゆもうれしまや中城はおの伊舍堂
かをゆたる間やおつみつのこゝろのけはふゆみつのみのけたちゆさ

Digital image © 2009 University of the Ryukyus Library

述懷　あいたゐま爪やゝてゝゐれそるやまなあかれそさあれゝわみや
あへやんから迎ものきゆそまたあらね朝夕つらこゐしされらそりか
仲間節　ゝもになかめたる人のをてからやゐよてゝるつきに向てゐきゆか
仝　たるゝゐたらてもすみゆる身ゝやすかいきやたかゐ肝のそそぬ中や
わゝやちやうもわゝのまゝゐらぬ世界ゐあれよ恨るよしのあるい
たかゐにまゝゐゆる浮世小車のめくて來る間やかわてくいるな
干瀬節　むねにもの思はゐたる火のかけも我か身そりいつるひかりゝもて
思ひそまましさまたみちやしゆる夜やわらへ聲よたてゝゐゐんはかり
無藏やうきふねゐわ身やそのいかり緣のつれゐそやはゐれくりしや
大田名節　ゐんねくて舟の浮る渡海やれはけふやむちをかてあちやゝ來ゆそか
仝　わか手引しちやるなゝそめゝはたいん里ゐあかいす羽御衣よすらに
沉仁屋久節　こしとう原たりてはゐもゆるをいゐこ色美さあすゐ年合のたにやぬ
仲村拵節　あかつきゐわゐれそてにゐみたてゝ仲島の小江わたりくてしや
仲間節　くりかへちむすふ御緣待みしやうれ染めてゐるかゐのあたにゐゆめ
仲村拵節　ゐかんかりそはいつ戸眞簾はそけてあにゐらはもゝまそ忍ていまうれ
仝　仲島の小江人しけさあものあゐゐらはもゝもてしゐていまうれ
仝　仲島ゐ小堀干ひるもたちゆられよりもふかく思てたそうれ
仲順節　はかれても互に御緣ゐてからやいゝにぬくはなのきりてゐきゆめ

仝　別てれもかけのたゝはぬきみしやうれなれたゐ匂そてにうつちあもの
仲間節　ててきよらさあてもさきゝよらさゐてもたるゝゐゐめゆか月も花も
干瀬節　ゝきゐゆらゝもてゐゐめれは月ゐものゝれもはしゆるけふのそらや
仝　たゝたはしゝもてゐりねしやるやゝのはゐのうつり香の袖ゐのこて
仝　鳥うたへは里前のかいそきみしやうる別れてやりいちや鳥や鳴ぬ
仝　鳥やうたらはも夜やあけてくいるゐまれゐ手枕のかたらひたいもの
述懷　たもひありあけゐ夜半のつれなさやゐれぬ與所島にをてゝしゆる
述懷　旅やゝこのゐれしらさゐやあれゐ夜々にゐよはする夢路たそて
述懷　わかれちゐつめてちかくなてくれそゐたゝきも御側はなれくりしや
仝　あかぬ別れ路やかゐすつれゐさめ朝夕たもゐけのいつものかぬ
述懷　暮される間やまつくらち見やへらくらそらぬあらはゝまいてをかま
仝　ゐきゆて恨ても笑てゝかめてもあにあるあてゐしの知ゆめやすか
只んてゝしやそかのかやうかになたるまつほたる緣のゐや別らゝぬ
この辛そしゆそもゐやへもをらやそゐゝくゝつさあれは一人ゝもて
そらはたち別ら與所めゐいぬうちにやかてあかつきゐ鳥もなきゆら
御衣の袖ゝやいわかよしめなけゐきやゐらそもゝもて捨ていまひめ
節よまちみしやうれ廻て春くれはうめゝうくひすのちきてしやへら

浦添王子

Digital image © 2009 University of the Ryukyus Library

保榮茂親方

おみたちたまのゐどにぬかれゝはあかぬ別れちのかたみちゆちか
ゐえれことの葉もしもにかれはてゝわきもさら〳〵とゆきとふゆる

金武朝穩

たとつれやたへてたもかけや繁くなれぬ與所しまやつらちはかり
おみたゝんことゑいつもこ乃浦につおきとめたかおこひ乃小ふね

護得久朝置

おみた袖ぬらきあかぬふやゐれのゐはれしるものやねやのまくら
浮世小車のめくて自由なゆるせつちまちみしやうれちきりしやへら
あかつきのそらにをてる白玉やあかぬふやゐり乃おみたさらめ
さゐよ下かけるくるまよりまさてとゝめかたおさやこひのこゝろ
うき世なみ立ぬしまにこきわたてあかぬゐたらおや無藏とふたゐ
かにたしさゐるひ忍てふやはちやる無藏かてまくらのゆめのゆく衛
ゐのるわかこゝろしおさけのいとゑぬきとめてたかおたまのゐのち
切もきれらゝぬとてものけらゝぬわきもまつほたるゐんの小繩

翁長筑親雲上

義理のまちかきやたもかけもともにかちはさぬことの禁止やならぬ

惣慶良成

野邊のくさ莚互にうてまくらあかぬゐかたらひにゝや夜やあかち
わすらゝぬあてとおみあらちあてもこきわたて行さこひの小舟
無藏かしま元にこきわたる小ふねたもひ眞帆かけてしのてつきやさ
うそて戀ちさやゆめに御行逢をかてまくらならへたる夜半のしちま
見れはこひしさや平安座宮童のけあけゆる潮乃はなのきよらちま

護得久朝常

縁もしおちけも深くそていきゆひいきやかおていきゆら二人か行衛
互に思切やいわかれゆる渥ゑのよてまた我そてとやいひきゆゐ
おれぬ與所島もおれしふるさともひとのしなさけやひとつさらめ
とおたちゆるはへる花のましゐきのくふかちのいとに向ていくお
もしか言ち里にふられゝはきやしゆかいことはにかゝる露のいのち
袖とやいひくなことの音のことにひけちおの乃たちゆる浮世たいも乃
くらやみよやれはしはし待みしやうれ二十日夜の月もやかてとゆむ
山原と御國こかとへちめれちいちやゐなていまゐらたともきかぬ
そらにてるつきやたもひますかゝみおかめれはうつる人のむかし

小那覇朝亮

こきわたてゐきゆる果てやしらくものゆく衛さたまらぬこおの乃小舟

親泊筑親雲上

Digital image © 2009 University of the Ryukyus Library

しらぬ與所島に無藏一人やらちもどてこぬ間のたみのくゑしや
當間　筑親雲上

新にしふく夜乃一人ねの空やたしむゐかつきのとり聲まちゆさ
仲眞　良運

まゝおらぬゆへとわかれやいをゑかのよて夢しけくみせて吳ゆか
仲村　良常

たかすたとしゆたかをとろちやめわらへ二人手枕のねをとやすか
兼本　里之子

いことはのことにせつまたんゑれは二人さたまらぬたまのいのち
又吉　全道

與所にいちいやらぬたもひ有明乃つきにたもかけのまさてたちゆさ
はたさむくなれはおみのよるひるもかおしたもかけの增てたちゆを
大宜味　朝春

中絶てをすゐいやいわなひたのまあを夕はゑらゝぬ沙汰をしゆんて
備瀨　筑親雲上

しのふくり舟にまちゆれともよすかあはぬゐらなみにそてとぬらす
一人くらさらんこと乃いとしめてかきおらすあはれしらなやすか
新城　安規

新ゑしふくよるや仲島のうらのひしたゝくたとのわきもせめて
はたとゑんむゑふしらおいとおはのきりてぬかれらぬ二人かおかや
名城　筑親雲上

きりてゐくをきにたのむいことをゑや與所に我おしをまかたて吳な
眞謝　里親雲上

たまさかにはなのしまやこきわたてゐはれ船つおくかたもおいらぬ
伊是名　朝睦

芋の葉をうたてゐそふたるわぬもこひのわおくさやおまとつたる
夜々にうてかわるつゆたのむえおにぬしゆかさま〳〵の情けかけて
本村　朝昭

うれしさのうちは世話おみもたちゆさおれぬえつ旅のこおのわたり
たまたないぬ蓮のこゝろしち互に生期與所きもやもたぬことに
多嘉良　親雲上

ゑゆらし思わらへらんの匂おたてゝうちむかひ〳〵ゆめにみゆさ
久志　里親雲上

與所の目の繁さゑはしまちみしやうれつきのやまの端に入る間や
池城　親雲上

いく里へさめてもおれしたもおけや一寸もはおれらぬそてにすかて

Digital image © 2009 University of the Ryukyus Library

大宜見朝知

ゐゐと山原ていとのゐんむすてたもを自由おらぬもゝのくりしや

濱元親雲上

あゐと與所島に無藏一人のこちそてとやい與所の引はきやたゆか

佐久本嗣順

首里御國人のたもかけとつれてむはゆる苧も放ちたみとしこと

うきよたつおみはそてやぬれらはんこきわたてみやたや戀のみさき

聞はわゐこゝろひかれて行さすみるゐかつきの琴のしらへ

佐久本喜章

ゆめうちにたいんす戀のならはしや袖しかほかくちしのていきゆさ

無情のはおたいんす朝夕もてなはいろ香彌ましゆる浮世やすか

大田朝明

つやてをるはおやつゆうけて咲を我身やさとをゐておまとさきゆる

岱嶺和尚

つねにたちかはてたそはよひ增すはつふのしものおさけさらめ

多嘉良里親雲上

きちのましゐきのたちゆんてと思はゐねて言語もあたらやはか

とまいて行先やつきかけもくもてしのふ我かすかたゐくちたはうれ

あはれゆめ内にしのてかたらたすさめてなまゝてもわすれくりしや

今歸仁朝和

ふやかれるくりしやたておけなわ身にのそてものみかほみせて與か

眞喜屋實珍

思てをまぬふてはらんてとたゆはか覺らすにたさま與所はしれて

渡嘉敷通睦

あかぬかたらたる人のたもゐけやあわれことの音にまさてたちゆさ

保榮茂朝意

おまから乃先やいきやすくらたゆかやたのむ人も御肝かわていまい

大宜見朝昆

ゐよひ路のくさはふみゐらはとゐは與所めしのからぬ浮名立す

大宜見朝擧

うちたするなみはうちよられ〳〵つおくかたなはらぬこひの小舟

田崎朝擧

やかてきゆんともてまつの下露にぬれてあゐつきのとて聲きゝゆさ

田崎朝用

新にしふくかせの身にしめてふけはつめて思まをるさとかたそは

小那覇朝親

たしむことのはや琴の音はは乃せてわそてひくよりも別れくてしや

Digital image © 2009 University of the Ryukyus Library

まよていくさきや梓弓こゝろひきゆるへをらぬうきおたちゆさ　知花里親雲上

渡ていくうらのなみあらをあれていきやかおていきゆら戀の小ふね　仲吉里親雲上

たゝむわかれ路のえなのたもかけやいつも明くものそらにのこて　伊集里之子

しほらしものゝ聲やおを夕をも我身ゝきかち焦らしゆる花のわらへ　護得久朝良

夜々に落てかはるつゆのたまをもたのみかたおさや人のこゝろ　大田里之子

さやあてる月もなさけあて二人おしのふあとかけやかくちたはうれ　大里里之子

無藏とわかなかやゝわおみのこひおうちたゝき〳〵うきお立を　我那覇朝周

互ゝ自由おゆるうき世おる間やてかやうこき出さこひの小ふね　上江洲由具

あはぬゝたつらに野邊のくをやとにまちゆておかつきの鳥こゑ聞さ

ゆめ乃間ゝゑのふ手まくらのにほひやうそておまゝても袖にのこて

やみちふみわけてとまいりわんをらぬ行衛をらつゆゝそてとぬらす　佐渡山安豊

わつかゆめ乃間の浮世わたゆんて朝夕さま〳〵にものをたもて　岸本賀雅

浮世何ことやしのふとも無藏よ與所のくなしゆすやしのひくりしや　神里常德

しおさけの糸につおかれる我身や浮世與所へらゝのひまやなゝらぬ　渡口政發

無藏かたもかけや道しるへしちゆて行衛しらつゆにぬれていきゆさ　山内盛熹

むつれたるむかし忘るおやう互にいつもたもかけやつきにのこち　護得久朝惟

かにもつれおをめたもかけとおこりいつも仲島のうらにのこて　渡口政發

にや來ら〳〵ともて獨ひには出てつゆにぬれなけおにや夜やあかち　山内盛熹

明日乃夕間暮や城嶽乃みて待んてやりさとにかたてくいれよ　護得久朝惟

うらめしや我身の與所の上やしらぬたのまらぬものと一期ともて　渡口政發

夕見ちやるゆめや道しるへしちゆてとまい〳〵に行るさとかをみゐ　山内盛熹

わくの柄ゝすける眞竹なてたいんす朝夕無藏たそはよらおやすか　護得久朝惟

Digital image © 2009 University of the Ryukyus Library

仲尾次政雅

かにもつれおもめうきを漕小舟きものかちよるすひまもおいらぬ
かわるなよ互ゐいくはるにおてもうめとうくひもとのあかぬちきり

仲尾次政昆

のよてまゝならぬ里前あけうつち我肝ゐまかしゆかつきゐかゝみ

花城康故

あけやうわかそてやうらの干瀬こゝろおみのよるひるもぬれる心氣

護得久朝常

あられちるたまも押はらひ〳〵しのてきやるこゝろあたゐなしゆめ
たとむうつもれてゆき折やしちもかわるなやう竹のもとのこゝろ
おみのよるひるもたもひまもとこひかうめとまつたけのあかぬいろ香

外間現敬

ゐさましや我か身ゆめの間の世界にあはれたもこゝゐ果もないらぬ
夜の更るまてものあもたみ里やよこもれかしちやらあてもおいらぬ
一期てやりとものてちきりしやるこゝも仇にきもかわる人のらめしや
結ひかためたるしおさけゐいとやいつまても互にとかぬこゝに

富永實文

あはれわかこひや三葉芹こゝろいつもたもかけや三人つれて

あせにもまれゆるいとやおきこゝろまし立てたはうれかおし里前
あわるなやう互に幾世いつちやてもちきるいこと葉のくたぬかきり

名城嗣利

ゐきのもみちはのいろよりもふあくしおさけのいとや染てたはうれ

山城宗蔭

とたあしもないらぬ我かたもる人やおらす三味線ゐいとのこゝろ
いつまてもあかぬひよくたし鳥のたもひ羽ゐちきりかわて吳るな

田崎朝光

こひし屋久田港しなもけもかけていきやし塩屋港わたていきゆか

外間正悅

ふやかれて一人いきやすわすれゆああそひもみおちやるはあの木蔭

安仁屋宗德

まことそりほあにのゝ契りしやへかあわるおやう里前あの世まても

仲尾次政起

若かあきはてゝかおし思さとにふられらは我身やいきやかたゆゝら

城間恒久

いつもかはるおやうまつゐ葉のことにくさの影まても一道たいもの

比嘉賀慶

Digital image © 2009 University of the Ryukyus Library

慶良間渡の潮やかれるこものよて無藏こわかちきてあたにゐゆめ　比嘉賀德

一人なかめこてそてぬらすたもをてるつきの外にたかす知ゆか　城間恒謨

無藏かふつくるや埋火のこゝろ伐られちるふゆも與所にゐゆさ　高良睦輝

てりきてらさあてもたるこゐゐめゆかたもひ有明の夜半のたつき　德田佐平

つゐくゐたゐはらぬあけやうゝらゐみに朝夕もまれゆさこをの小舟　伊是名朝直

そらまてるつきもすみてふく笛またもひゐてはしゆる緣のつらさ　覺を出ちやてむかし夜半のつきかけにしのてかたらたる人のなさけ

はゐの上に伐てふはへる身のことにわたて自由ゐゆる浮世やらゐ　辻トキノマカト

この間や小舟かせまゝになれて今やゐわうちにゐゐことめて　仝山舛木ノカメ

まちたてゝ置はのよて夜伐らしに吹よちらされかはなのにほを　すてられるわ身のうらみゐはぬたきゆめたこを打笑て返事やちちも

筆こゆることのゐゆるわこやれは伐また思事もいやいちゆすか　花城里之子

たもて自由ならぬ人のたもかけののけてのけらゝぬきもにすゐて　惣慶親雲上忠義

はゐも世のゐかや自由ならぬさらめあれのしゆる夜やつゆも吸ぬ　神村親方

たもひ身にあらはこことのよしあしもいやなこかれゆめやみの螢　義村王子

たもひあるやこも自由にこて行ゆいのよてこかれてゐやみの螢　安仁屋政清

包てつゝまらぬあはれゐつむし乃身にあまるやこのたもひやれは　喜屋武按司朝敎

もの思こかれゝは夜々乃やたる火も我ゐ身から出るひかりこもて　大宜見親方

しるをこやたらねくさむらのほたるをちゆひ終夜もゆるたもを　渡久山政規

つほてつゆまちゆるはゐ乃咲き出らは匂やたかそてにうつち吳ゆか　當間朝宜

Digital image © 2009 University of the Ryukyus Library

我か身しちわゐ身ゐかゝらち螢やみに身をかくすかたもゐいらぬ　豊見城親雲上

うらめしやつきも山の端にゐゝてたのむ夜のそらやふけてゐきゆさ

たのむつきかけの山の端ゑいらはいきやすたみくらち鳥聲まちゆか

たもひつくさらぬてるつきに向てつめてまちゐねるとりの初聲　野國按司加那志

月やつきともて與所やなかめゆら我身やくらさらぬあきのこそひ　豊見城王子

ゐまりとくゐくゐ野邊のきり〳〵すまさるわかつらを知ゐしちゆて　讀人しらす

つらさ身にゐまて夜々ゑまつむしゐ與所に名の立すしらぬゐきゆら

まゝならぬ無藏かいことはのつゆにぬれて松虫の夜々にゐきゆら

わをらゝぬゆへとゐわれまつむしと夜々に聲たてゝともにゐきゆる

たもひきり〳〵すくさに身はかくちあわれ啼こゐやうきなたてゝ

ゐはぬつれなさや野邊のきり〳〵をとゑゑゑゑゑ聲たてゝ鳴んはかを

まさるめは明るなつの夜とやをかむねにもの思は明たかねて

ろかちたとたかく立るなやう小舟與所しらぬこひのわたをたいもの

えのかゐゑゑゑゑてあさち紺染のいろわかち吳ゆか紺屋のあるた

田舍人

たこち吳てかほし與所しらち吳ゐみるひとやたんしよ一人たいもの

● 仲風

北谷王子

なにの因果にうまれたかなまの十七八ものをたもて

平敷屋朝敏

をまはゐかゐるかたきゐすへかたもひわすれゆるひまもゐいらぬ

與所目たのふゐたまこゐねうきなたつ二人まゝとやゆる

るたてくゐれこひわたらうき世鳥ゐかぬしまのあらは

をゐの木蔭にすみゐれていきやををつかたやのわかていきゆか

與那原親方良矩

まくら二つに身は一人たをてこひしをやはまゐ眞砂

東風平親方

をゐの木蔭やかをのやとあらしまと間の浮世たゐもの

こゝろなからもはつかしやをてしかほかくちしのふ夜や

上句ハシバアンマ詠歌

高宮城里親雲上

あはらやにつきやもるあめやふらねとも我をてぬらを

大村

人のゐのちはあをるをゐ日影まと間のゆめのうきを

Digital image © 2009 University of the Ryukyus Library

宜野灣王子朝祥

行かもとるかしあんはしうちもとるとしともゝらめえやる
みやまかくれのうめ乃はなたかしのてきちやかにゑひもらち
石の火ゐ我ゐむねやうちたさぬ間乃もゆるたもを

喜屋武按司朝教

こひのやまちのはて知やいやす〳〵ともとる人やをらぬ
うらめしやひとこゝろあたゝいろかわて黄葉ゑなため
兎にも角にもまゝともれ一期をられらぬ世界よやれは
ゆめか現か幻かしゆらと手まくらのかたらひしちやす
かをひしのふのみちしはにさえる夜あらしやふゐぬあらな

宮平親方良綱

人のむくひ乃あるやらは生ちをるうちにみせてたはうれ
なさけのいとにつゐかれて切もきれらゝぬ金の小縄

瑞慶覽昌綱

磯のとまやのあきのつきつれなをや一人ゐかめあかち

江田親雲上盛常（龜川親方廻）

うきなたつともよしのやまえゐともろともにちりる我身の

濱元良典

かれ乃浮世かこの世界やあたら眞實もあたゑなたさ

仲程良恩

よひとたもへは鳥やゐくかたる間やないらぬゐつのよるや

濱川親雲上

あはれ浮身のともとゐるつゆたきゆるそてにやとるたつき
くさのうら葉か我かそてやをひもあかつきもつゆのやとる

西平子

にしにかたふくつきみれえもはやをとわかれ近くゐたを

嘉陽親雲上

あたら添ねのゆめさめてつれゐをや鳥とゝもにゐきゆさ

池城里親雲上

たもひゐかはにひきかへせこひや武藏野のはてもゐいらぬ

讀人しらす

ねてもさめてもきもろくはんひきあわちたはうれ旅乃そらや
みなと出をはかせたのむはしてゐをまをるたもはみゐとこ
かれをしを〳〵旅のいきもとりいとのうへから
嘉例吉たう〳〵いとは忘て大和行いつきやい
さてもうきをの丸木はしわたてあやしさやゝみちこゝろ

Digital image © 2009 University of the Ryukyus Library

よるとしのもとをれめさきにゐるものかふたるむかし
一期榮花どれもふゐやうわかさひとゝきの浮世たいもの
わたて悔むゐたゝあんはしなつけたるゐどゐこゝろしらを
はゐのいろ香をしゐんはたゝわたてゐかめてもこゝろれくゐ
船と橋とをあるうきよわたらゝぬてやり朝夕ゐくゐ
こひのかきりのゐるものい浮世ふりすてゝしゐぬかきり
あつさ弓つるはけて矢はつかけひきの自由もならぬ
みやまゐくれ乃岩つゝきゐをてくちるとも與所や知らぬ
ゐろに出すゐかきつはたれもてれまぬふりしちゆて互に
與所ゑたらすなれみわらへはゐに夜ゐらしのふゐんしゆもの
たのてたくものわかまくらはゐの匂をらはれこちたはうれ
たのてれくものいろふかくをめてあと名くたゝぬことに
ゆきくれてみやまちゑこゝろあてとひゆるやみのほたる
ひとり丸寢のたゐやとにれもひつくをらぬあゐしかねて
いのちこそたのもしやまたもれのころのつきにむゐて
つきはさやかに身は一人れしともてをゐむあきの十五夜
つきのかわとめ身か肝ゐむゐしなかめたるつきやゐらぬ
つきやむかしのつきやすか替ていくものやゐとのこゝろ

與那原殿内ノ下代

無常乃浮世とれもへともつらさ身にゐれはくらしかねて
ゐさけのつゆのふる間とはなも匂まゝゆるうきよたゐもの
しゐけのわすられめ浮世いことはのこたぬ間や
まことひとつのうきよさめのよてゐことは乃ゐわぬれきゆか
をしかやらあゝかやらゐろわかちたはうれ我肝やをま
こゐにれもゐのみたれ髪さはきくいてたはうれ我きもやをま
加籠のとりゐやまゝならぬちかくみゆれとも自由もゐらぬ
ゐらぬかや〳〵ともにゐからへてをりやしやかゐ
むをはらぬかたいとのあわぬうらみとてつもる月日
たのみゐき身はやとて誰をまつむしの夜々になきゆゐ
まゝゐらぬのかゝにある浮世くさの葉のつゆとやすか
浮世くさ葉乃つゆこゝろし乃ふかたときやゆるちたはうれ
落てなかるゝ身かゐみたとめるしからみのあらなやをか
今はれもひの身にあまてつゝめともゐみた與所にしれて
れもひ深海にかせあれて目乃緒たつゐみにまくらゐかち
こひのわたりやゐみあれていつも我かそてやぬらちもとる
しのふ夜やなみゐれてこひのかけ橋やわたてくりしや
こゐの小舟に二人のてきやならはもかせのまゝとやゆる

與所の耻目もいらさらぬこきわたてみほしや戀のみさき
兎ゐも角にもおらはおれしゆらゐたまの緒のあるよかきり
かつならぬ身とやゑかおをけあて無藏ゐにやおうつち
行かもとるかみちおゐゐさてさとらゝぬ無藏か行衛
まてしはちかたらはにあたらつきゐけものこちいきゆめ
鳥聲をへうらみちにまたも開鐘かねのおるゐ心氣
かねのうきよかおをけなゐぬときなたんともて急きゐまひす
かたらひこ乃夜ゐつくをらぬ義理に科かけてわかてゐきゆす
あかぬわかれのつれおさや朝夕たもかけのいきものかぬ
ねてもさめてもわすらゝぬなれしたもかけの目の緒さかて
たゝなかし〳〵あれゐたもかけの朝も夕さも
たもかけの〳〵たゝゐゐしわするひまもあゆら
つれなをや〳〵ゆめにすかされてあゐしかねて
わすらんてまとろめはつれおさやあれかゆめにみゆを
たもひねさめのあかつきや鳥もえら〳〵と我身もともに
一人ねる夜のつれおさやとてもろともに鳴をあかち
ゆきかゐられか夜半にふるさむをつれおさやひちゆいさらめ
ゐられうつはまにおく千とり身かこにあてとなきゆら

とまてあかしのうち千とりおみちまくらしゆて鳥聲きゝゆさ
あはぬゐゐしゐうちとてつれなさやともにおみちまくら
あをぬゐかしのうらおみにぬれておく〳〵も鳥聲きゝゆさ
そなたたもひに身はやせて二卷あるたを乃三卷まきゆさ
ちをやのけもりか身かこゝろあさよこかれとて浮世わたる
武藏野かわかこひやたみつくすことのはてもおゐらぬ
あへやからまゝならぬのをてこの世界に義理のゐたか
ふらはふれゐゐほとも我身やはおそめのをてやあらぬ
たもひ乃こすなこの世界に死出かやま路やはおやをかぬ
さまをしのふの摺衣みたれそめおちやるゐんのつらさ
ゐたら白地にゐろつけてみたれそめおちやる緣乃つらさ
御船の小繩か身かゐんやきれてきれらゝぬ無藏と我身や
あまにたちこまにたち物思ふれ〳〵となるゐ心氣
さらはさらをとたもへとも引されていきゆをわ身乃きもや
かくれしのひの與所しれてたもひいたつらになるゐ心氣
あわぬむゐちのなまやれは乃よてこれほとものよたもる
何につけても氣のとくやおまにおちやしやあわぬむゐち
たもひあたすなはおの身にかゝて思たすかとゐやたら

Digital image © 2009 University of the Ryukyus Library

いそのあをひのゐたたもひこかれゐく罪やたるにゐきゆか
くらをらぬのかゝにある捨ていくむこゝもゝらめたやる
形見こそ伽ゐらぬみれは氣のごくゐるゐ心氣
なかきいのちのうらめしや死出かやま路ゐまちゆらやすか
待をまて死出かやま我身もなま越てうきをかたら
首里んかひいまひらはいやりすら木棉ひきゆたんてゐたてたはうれ
美衣のそてごてをしめごもきやゐれてやてごもてすてゝゐまゐめ
存命てまたをゐむごかくうきゐはいのちやたら
かたゐたやくつきのやまの端にかゝるまても
義理のせめゐはもくちはてゝ二人まゝゐゆる浮世やらな
淀のゐは瀬のみつくるま御ゐんゐてさらめゝくり逢たを
まつの葉に二人ねてて今やはせをの葉も獨りせをさ

渡久山政規

あかぬわゐれのつゆのたまはらへごもそてゐかゝるしけしや

座間味盛令

つきやほさつの上にてれゐよてわひ住のにはにてゆか

新城安規

くらさらぬくゝ夕間暮にゐれはまんくひ打を

義理やうきをのまゐきをめかこまれて我身の自由もゐらぬ

金武朝芳

こひのゐさちのあを衣そめゐさぬうちやつらさはかり

護得久朝常

のかやうかたみのはゐ衣そてにたもかけゐ朝夕すかて

伊順

まちかねて啼らをめやくそくゐ今宵關やつまて

城間恒久

てかやういかたまこかね浮世しらかはの關のあゐれ

仲尾次政雅

關の戸はごをすごもしゐていくこゝろ禁止のなゆめ

護得久朝良

● 雜

よかてさめ兄弟や親かなしたそは我身や與所島のあらの一粒

尙寧王

てる日にたいんすてらさこごしゆをか與所島の習や廉相にあひた

尙寧王御母

尙寧王妃

Digital image © 2009 University of the Ryukyus Library

北かせの眞北ふきつめてをれは按司添前てたの御船とまちゆる　尙　質　王

十尋屋にをても八尋屋にをてもきもときもさらめ按司も下司も　尙　灝　王

こむしあかつらのゐみにすてぬらち通たるむかしわすれくりしや
世界やくらやみかたてむ人もをらぬやゐて開鐘かねもゐゆらやすか
上下やつめてゐかに藏たてゝうはひとる浮世たさめくりしや
いきたらぬことや一人身まみしやうちもゝ草のあはれ救てたてうれ
いつみくちゐけて渴きとめみたやうれふたつゐいぬ人の命やれは　尙　敬　王

我か身つて見ちと與所の上や知ゆる無理するゐうきとゐすけはゐり　尙　育　王

かきやて風
青柳のいとにかれてしよむすてうれしこときくの月とまちゆる
あつき御惠や報るかたないらぬあさゆさも千代の御願しやへら

かきやて風
青柳にたもといとの乃縁むすて虎のかけはしにむしやひきちやひ
虎に羽つけてとふよりもはやく雲まる走いゆる按司の御ふね
あらたまの朝に四方の民そろて唐土天きやなし千代のたねかひ
愼のゐれはものことによたしや朝夕たみつめれひとのこゝろ

つゝしみの一字とりまもてをれはのてそこゐゆる上も下も　尙　泰　侯

さかていくゐかにつゝたまなゝよめてゐるゑと稻やあふしまくら　久米具志川王子朝盈

かきやて風
石名子の石の大瀨ゐるまてもたかけほさへみしやうれ我御主加那志
この世人間やみゐ弟きやともれ沖繩御間切や一家内たいもの乃
あたまる垣たいんす御衣ゐけて引いたいんすもとひらひや手とて引さ　大　新　城

らくふつの御帶よわらたし廻ち首里きやゐし美公事てわないさたら　與那原親方良矩

親子たしつれて出たちゆる今日や首里加那志天の御祝やこと
ふゆるあめつゆの時よたかはねは民もたのしみゆる御代のうれしや

かきやて風
なみかせ乃音もしつかゐるゐまの御代にうまれたる民乃うれたや

仝
御祝ことつゝく御代のうれしさやよゝるとしまてもわかくゐゆさ

仝
首里加那志天のもゝとしの御祝いくとくりもとすゐつやしらぬ
いちもつくされめ朝夕御万人のかみねかひよたちやるけふの御祝
たとむも乃ことにすくれやいをても人乃みこころやまことひとつ
深山そこもれる月のかけしらぬ與所目ゐいぬともてしちやらやとか

Digital image © 2009 University of the Ryukyus Library

人にあることのかくもらぬものやゝみの夜のうめの匂さらめ
敬の一字身はまもてをれはうきよものことに怪我やないもめ
いきたらぬことや一人たらむ〳〵互に補てとゝしやをゝる
人のをもあしやあらはしとつれてたへらすにうつるはあのにほひ
互にあとさきや一人たのみ〳〵いつもかわるなやうとしやをても
かにもつれあさめ旅の上のそらやあかめゆるつきも伽やならぬ
馬をひきかへせしはもむきみほしやたとにきく名護の許田の手みつ
こゝろ伯てのめは世話ともわすて酒やのちのひゆる藥やすか
六七十なても歳よてとしゆるいきやしかあきもやいつもわらへ
御祝日になれは押あせもまともたんちゆかれよしのしるしをらめ
いつかたらともて御待しゆるうちに御船やひとはしら那覇乃みなと
ねのはへやいはほみはたつのことにことほきや千年子孫そろて

恩納節

かきやて風

仲村拵節

仝

喜安親方

浮縄秋山をくれあゐにそめてやまと吉村の御茶のあそひ

名護親方寵文

親になてたやゐ恩知ゆんてやてのむかしよせことやなまとしゆる
やまちふみわけて道しらそ我身のたとひあましゝものうらみゆか
ほめられもすかぬそしられもすかぬ浮世あたやすくわたりほしやの

かくさてやりすれは天と地やかゝみはつかもやあけのうつるとめは
鳥たいんす深山しける谷ゐらて我か身かこをめることのしゐらしや

具志頭親方文若

ほまてそしられや世の中のならひ沙汰もないぬものゝのやく立ゆか
れいきもゐやべらぬすみもしやへらぬつほて石あやいすくてをらあ

平敷屋朝敏

たとひあましゝもたか列ていきゆかこゐ世やみあちゆて一人さらめ
亂れかみをえく世のあかのさはきひきかそこなたらあかものあぬ
あけやう我かそてや波下のひせかゝわく間やあいさめぬれる心氣
四海なみたてゝ硯みつあちもたもこゝやゐまた書きもたらぬ

雲岸和尚

あからへてをれはまた御行逢もすらゐもしあさきたゝは花のうてな

石嶺親雲上

をたてたまちらち呑む間乃うきよさめて慾悪乃つかはきやしゆか
酒も伯かよらはこの世をてあかれ祭りしたゝれ乃あの世いきゆめ

伊野波親方

わほらさのたてや山畠しゆんてあつあらは粟穂あらをみやうれ

惣慶親雲上忠義

散山節

恩納節

Digital image © 2009 University of the Ryukyus Library

仲村拵節

仲島乃小堀あみうちゐいかはものよたみつめれうその住家

國頭親方

かきやて風

よたゐなる御代乃ちるしあらはれてあめつゆのめくみときもたかぬ

唐土天加那志浮縄たゐゐちやゝかたらても與所のたにやしらぬ

瓦屋節

豊む中城よしのらのたつきみかけてり渡てさひやゐいさめ

栢堂和尚

そてや紺染にちめゐさぬあてもこゝろさためたる人と佛

うれちさや里か座羽箒たはうちむねに塵つかはゝらてすてら

遊女よちや

こはもそよ〳〵と島もとな〳〵とつゐきある牛のなきゆらとめは

ゐゆるもの聞ぬゐらぬもの聞すこの世ゐらあのよちかくゐたら

生居たる間や我身廉相にみしやうち死はゐんしやう門に通のしゆか

あんま主やよゐてうまれ島ゐまひい我身や仲島のゐらの一粒

一のかいき二ゐいきよてと遊ひゆたるゐつの間に里やたとゐゝたか

恨む比嘉橋やなちけゐいぬ人のこの身わたちてやりかけてたきやら

ゐとやゐきこゝろあたらませ我身乃ゝらて羽衣やかせのやゆる

銘苅子

二十一日の夢やいゐむかちゐるひさめて極樂の木戸にいゆさ

邊野喜節

恩納節

恩納なへ

ゐみの聲もとまれかせの聲もとまれ首里天加那志美御機をかま

明日からのあちてさとゐ番のほて瀧ゐらそあめのふらなやすか

神村親方

中城ハンタ前節

こゝろうきやゐゆる春の野に出てかせにそてとはちゐそふうれしや

ちやかてるつきはさそはれて我身のゐかめらんともて出ていきゆん

むかしうらみたるゐかつの鳥聲ゐまに伽ゐゆすしらぬあたち

仲島のうらのふゆのさひしちや千鳥なくこゐにまつ乃あらし

仲村拵節

恩納節

ときとしにゐはて恩納村はつれ路はさてまつ乃なたるきちらち

北谷王子朝騎

かきやて風

一本ニ東風平親方

九重のうちにつやてつゆまちゆすうれしこと菊のはゐとやゆる

泡水親方

述懐

露の身はもちやい遊ひゆちや笑てこの世ふりすてゝいきやしやかゐ

津嘉山親方朝德

瓦屋節

一本ニ惣慶親雲上

世界やものたともゐくとりの聲も清てありあけのつきのきよらさ

高嶺親方朝行

我ゐ身さめともて與所にめたのちてそしりあちむきゆか人のきもの

東風平親方

Digital image © 2009 University of the Ryukyus Library

かきやて風　上下乃綾門關の戸もをゝぬ治ゑる御代乃しるしさらめ　田島親方

御主加那志御願ゐゝのこゐそろて出たちゆるきもにさゐのあるゐ　天久親雲上

かきやて風　首里天加那志もゝこわれてふわれ御万人のまきりをかてをてら　仲吉親方

干瀬節　はなにやまあらしつきの夜ゑかをみかゝるつれゐさと浮世さらめ

仝　かゝる夜やむゐし一人こまい〳〵あれか門も我門もつきゑたゝき　玉城親方

仲村拵節　世界やゝまかはの丸木橋こゝろかにもあやしさめわたて見てはかにやる御座敷に御側をてをかて我胴やれはわこへつてこみやへる

綾蝶節　恩納節　れもかけよのこす許田のたま川にゐをけてにくたるみつのかゝみそてに匂うつち朝夕ゐゐめたるはゐのれもかけのはすれくりしや

かきやて風　美公事こをまちうれをこと菊乃をゐ乃さくころにほこていまうれ　義村王子

仲村拵節　こゝろあてみゐけむねうちのかゝみものゝかけうつを寶たいもの

仝　きものもてなしや竹乃ことすくゝ義理のふし〳〵やなかにこめて

あたにゐゐくゐやう野邊のはなすゝき一期たのまらぬゐせにむゐて

かきやて風　いつれかれをしのれねかゐ叶はこてかれよしの美風まこもれしゆを

仲村拵節　きもの梶しちゆてわたる身か舟やゐさけふくかせこ一期たのむ　宜野灣王子朝祥

うちかさね〳〵かさなゆる御祝御代乃れさかりのしるしさらめ

仲間節　れもことのあても與所にゐたられめてかやうれをつれて遊てわをら

仲村拵節　ひにやさはしきやさや生付たいものたゝまこと守て浮世わたれ

與所へらひもすれはきもとかゐしものたゝまことつくち浮世わたれ

たとひ仲島や音たえてをてもゐつし名のくちゆか戀乃小瓮

袖ふたるむかをゆめやちやうも見てはしはし慰めになゆらやをか

かすかけてわたる深山くほこゝろ一期身の世話のえてもゐいらぬ

やみの山原や道しらぬあものつきてらちたはうれ仰きをゐま

なさけ身にえめてわかれよるきはやうしろかみ引きゆさ島のゐこり　美里王子

虎頭山出るあきの夜のれつきくもりゐき御代のかゝみさらめ

ゐまにゐて肝しきもこうらめゆるよしまらぬ月日ゐそひすくち　豊見城王子朝祥

とし明んてすもよのゐけるまてよ今日と御万人のむねやあきゆる　豊見城王子朝尊

Digital image © 2009 University of the Ryukyus Library